



「雪と氷の疑問60（みんなが
知りたいシリーズ②）」

公益社団法人 日本雪氷学会 編
高橋修平・渡辺興亜 編著
成山堂書店, 2016年10月
136頁, 1600円（本体価格）
ISBN 978-4-425-51421-2

つい先日始まったばかりだと思っていた2016-2017冬期も早終盤に差し掛かろうとしている。今冬期は、初冬の季節外れの大雪で幕開けしたが、年を越して1ヶ月を経た頃から、いよいよ寒波の真打ち登場、といった趣になってきた。冬の進行に伴い、今冬期も雪氷に関する話題が全国各地から多数寄せられた。多くの日本人にとっての雪とは、季節の風物詩として耳目を（良い意味で）驚かす自然の造形美である一方で、時に災害を引き起こす厄介な存在という側面も持っているように思う。しかし、細かく見ていくと、雪に対してどちらかと言うとポジティブな印象を持つ人とネガティブなイメージを抱く人の存在比率というのは、地域や年齢などに応じて実に多種多様である可能性は高そうである。

本書は、一般的な人が抱くと想定される雪と氷に関する疑問を60個選定して、それぞれに対して日本を代表する雪氷学の専門家が回答・解説を与えるという構成になっている。60個の疑問は、雪、氷、雪氷現象、凍土、気象、南極、北極、雪氷利害、及び宇宙氷の計9ジャンルに分類されている。掲載されている疑問の中には、このような疑問を抱く一般の方が本当にいる

のか？と思うような、なかなかマニアックな疑問も少なからず含まれているように見受けられたが、それはご愛敬といったところであろうか。大部分の疑問は、評者の実感に合ったものばかりであった。雪に対するイメージにはポジティブなものネガティブなもの2タイプがあることを冒頭で述べたが、本書に掲載されている疑問の多くは雪氷を（どちらかと言うと）肯定的に捉えたものであった。そのような中で、雪氷の負の側面を丁寧な文章で解説している雪害と雪崩の項は、コンパクトな割に内容の密度が非常に高く、いろいろな点で蒙を啓かれる思いがした。近年、非積雪地域での大雪災害がクローズアップされることが多くなっているが、普段雪氷に馴染みのない人にも上記2つの疑問への回答は是非一読をお勧めしたいと感じた。

全体としてみると、各疑問に対する回答は一般の人にも分かりやすく明快に提示されている。しかしながら、科学的根拠の論理的説明が手抜かれているわけは一切ない。説明に使われている図表の量も必要にして十分である。結果として、読者は新たな知見を得る驚きの体験を自然と重ねることが出来るように工夫されている。雪や氷に興味を持つ方は是非本書を手元に置き、日々の様々な体験の際の相棒としてはいかがであろうか。サイズは四六判であり、野外への携行にも支障は全くない。一般の人のみならず、講演会や公開講座などで一般向けに発表をする機会を持つ研究者が話のタネを探したりする際にも有用であろう。

（気象研究所気候研究部 庭野匡思）